

2021 年度第 11 回価格審査会の開催について

2021 年度第 11 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2022 年 2 月 14 日(月) ~16 日 (水)	
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長
	鈴木 由香	株式会社日本設計 コスト設計部長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	橋本 雅宏	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：高橋 俊一、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：今井 豊
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2021 年度第 10 回価格審査会議事録(案) 確認

2021 年度第 11 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」3月号、「Web 建設物価」3月号の価格動向	
・ 価格が上伸した資材	
【Web 建設物価】	
月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼矢板、鋼管、鋼板・平鋼、ステンレス鋼(全都市)、伸銅品(全都市)、レディーミクストコンクリート(大館、由利本荘A、B、大仙、北秋田A、仙北、足利、佐野、町田、相模原A、B、平塚、藤沢、厚木、富士吉田、大月、身延、飯山、栄村A、B、沼津、御殿場、小山、松江、安来、高梁、竹原、東広島、安芸高田、三好A、B、C、高松、丸亀、坂出、中津)、再生砕石(木曾、新見)、PHCパイプ(東北の各都市)、コンクリート型枠用合板(全都市)、アスファルト混合物(秋田、茨城(大子除く)、栃木、岐阜(高山、郡上、下呂除く)、静岡、三重(津、伊勢、松坂、鈴鹿、名張、伊賀)、長崎、佐賀(鳥栖除く)の各都市)、自由勾配側溝(青森、秋田、千葉、岐阜、名古屋、津、岡山、長崎)、ヒューム管(青森、盛岡、仙台、秋田、山形、福島、岡山、那覇)、RC・PCボックスカルバート(岡山)、針葉樹・高木(全都市)、燃料油(全都市)、ステンレススラップ(東北、北陸、近畿の各都市)、銅スラップ(全都市)ほか	

<p>・価格が下落した資材</p> <p>【Web 建設物価】</p> <p>ストレートアスファルト（那覇）、鉄スクラップ（東北、北陸、近畿の各都市）、アルミスクラップ（名古屋、大阪、広島）ほか</p> <p>・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。</p>		
審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問1	コンクリート表面被覆塗料、下地調整材、鋼構造物用塗料、一般建築用塗料、希釈剤の5資材は、「全国(北海道・沖縄除く)、北海道地区、沖縄地区」と日本全国レベルで上伸し、最大変動率もどれも高い水準となった理由は何か。	指摘の5資材について、メーカーは、原油価格上昇を背景とする値上げに取り組むとともに、生産品目の選別による採算確保にも取り組んでいる。一部の製品は、これまで安値で販売していた主要メーカーが生産を中止し、他のメーカーの高値が浸透したため、大幅上伸となった。
質問2	針葉樹・高木、常緑広葉樹・高木、落葉広葉樹・高木、常緑樹・低木、落葉樹・低木、竹の6資材は、各地区とも「生産者や流通筋の値上げが浸透」という理由で上伸し、最大変動率がどれも高い水準となった理由は何か。	指摘の6資材について、全国で生産コストや輸送コストが上昇していることを背景に、生産者や流通業者が値上げに取り組んでいる。採算性が低かった一部の樹種については、生産者が大幅に値上げし、大幅上伸となった。
質問3	ウッドショックを起因とした国産材への代替需要については、昨春あたりから報じられるようになったと記憶しているが、今回、樹木類が一斉に上伸となった契機を知りたい。また、上伸の程度は、大阪・名古屋以外の地区でも同様の傾向なのか。	樹木類は、全国で生産コストや輸送コストが上昇していることを背景に、生産者や流通業者が値上げに取り組んでいる。採算性が低かった一部の樹種については、生産者が大幅に値上げし、大幅上伸となった。樹種ごとの値上げ幅は地区によって異なり、上伸率は都市によって異なる。
質問4	杉(KD)は、東京地区と大阪地区ともに4か月間変動がないが、木材の国内、輸入、それぞれの供給状況と価格の見通しはどうか。	国内需要の約6割を占める輸入材の供給が持ち直し、木材の供給不足は解消に向かっている。高止まりした価格に対して需要家による値引き要求が再燃しているが、需給が均衡しているため大きく下落する可能性は低く、しばらく同値圏で推移するものと思われる。
質問5	生コンは、全国的に横ばい又は値上げ傾向の中、十津川地区のみ3,900円も突出して値下がりしている。説明では、員外社が安値販売によりシェアを拡大したことが要因とあるが、周辺地域への影響はないのか。	十津川地区は、県内唯一の員外社が存在する地区であり、この員外社と協組の受注競争が増して下落となった。この員外社は、十津川地区以外への販売は行っておらず、周辺地区への影響は見られない。

質問 6	<p>コンクリート製品関係は、仙台地区と岡山地区の価格上昇が目立つが、両地域で今月、「メーカーの値上げが浸透し、上伸する」特有の事情があるのか。</p>	<p>コンクリート製品関係は、全国的に製造・輸送コストが上昇している状況にある。仙台地区と岡山地区の主要メーカーは、道路用製品、農業用製品など幅広い製品を取り扱っており、これら取り扱い製品を一度に値上げしたため、多くの資材で上伸となった。メーカーが多くの製品の値上げに取り組む地区は他にもあるが、地区や資材によって値上げ交渉の進展状況は異なり、今月は仙台地区と岡山地区の変動が目立ったが、ここ数カ月の変動状況を見ると、多くのコンクリート製品が複数の都市で上伸するなど全国的に同じ傾向と言える。</p>
質問 7	<p>上伸した資材の割合を見ると生コン・骨材・合材・コンクリート製品等の地場産業系が前月の 16%から 39%と、23%の大幅な増加となっているのは、どのような要因によるものか。</p>	<p>協組やメーカーは、製造コストや輸送コストの上昇などを理由に値上げに取り組んできた。年度末の需要期に入り交渉が活発化し、多くの地場産業系資材の値上げが浸透した。</p>
質問 8	<p>生コンで、島根県の松江地区と安来地区が 2,200 円の大幅な値上げとなっている理由は何か。</p>	<p>両地区を販売エリアとする協組は、製造および輸送コスト上昇などを理由に昨年 7 月から値上げを打ち出した。これまで交渉が本格化していなかったが、年度末の需要期に入り交渉が進展し、値上げが浸透した。</p>
審議結果	<p>「建設物価」3月号、「Web 建設物価」3月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以 上